

【成果報告1：海洋教育のデザイン】

- 1 学校名 倉敷市立南中学校
- 2 活動名 被災地から学び、郷土の海との共生を考える
- 3 実践の概要・ねらい

「命」に係わる防災教育は、学校教育において今日的課題になっている。しかし、温暖な気候で、地震災害の少ない倉敷に住んでいるため、生徒の防災教育への興味・関心は低い。2年生では、減災学習として、神戸・淡路での震災学習を計画している。本校において「減災」は3年間で行う学習テーマの1つである。今までの減災学習は、「免れない自然災害に対して、より被害を少なくするにはどうすればよいか」という内容であった。そのため、「海とは関係のない仕事をするから、津波は大丈夫」等の減災学習の本質から外れた感想もあった。そこで、今まで取り組んできた減災学習に加え、東日本大震災の被災地が水産業や地域をどのように復興再生しているのかを知る活動を行い、海と共に生きる姿勢、海との共生について学ぶ。そして、「我が町倉敷が今までどのように海と関わったか」について知る活動を行うことで海との共生を防災という観点を中心に考えさせる。また、水島コンビナート、瀬戸大橋によって漁業は、地域はどう変化していったのか等、多様な取組から学びを深める。

4 実践計画

①概要・活動計画

- 5月 減災学習オリエンテーション
- 6月 講演会（南三陸～震災からの水産業と地域の再生～）
- 7月～夏休み レポート「倉敷と海とのつながり」
- 夏休み 現地研修（高知県）
- 9月 研修報告会&防災フェア（防災月間に合わせて）
- 2月 講演会（瀬戸内海の変容～瀬戸大橋30年目～）
- 3月 1年間の活動のまとめ

②実践の評価について

それぞれの活動においてワークシートを準備し、生徒は、活動後、振り返りを記入する。その記述から、キーワードやキーセンテンスを抽出することで、活動の評価・成果を測る。

また、各自がワークシートを一冊のファイルにまとめていくことで、生徒の変容を見取る。

5 今年度の実践

①計画からの追加・変更点等

(1) 5月

- (ア) 減災学習オリエンテーション
- (イ) 日本遺産「一輪の綿花から始める倉敷物語」DVD視聴

総合的な学習の時間に行った。400年前まで倉敷周辺は一面の海だったことに、多くの生徒たちが驚き、倉敷が現在、年間出荷額日本一の「繊維のまち」となっている歴史を学んだ。さらに、倉敷市



DVD 視聴の様子

の白壁が、江戸時期広大な干拓地の富を背景に生まれた商家群であること等。生徒の感想には、「自分たちが住んでいるところが海だったことに驚いた」「倉敷が発展していったこと理由は、海に面しているから。海に面しているからこそ、いろいろ交流ができたのだ。知らなかった。」と倉敷と海とのつながりを知った記述が多かった。

(2) 夏休み

(7) 総合レポート テーマ「海」(全員)

(4) 高知研修(希望者)

行き先は、生徒の希望で「桂浜」「黒潮町佐賀地区の津波避難タワー」とした。前者は、①瀬戸内海との違いを知る②太平洋を目の当たりしてそのスケールを肌で感じる③名勝桂浜を見学する④台風の中継で桂浜がよく出ており太平洋の様子が分かる という理由、後者は、①南海トラフに備えている高知県のなかでも、国内最大級の津波避難タワーを実際に見たい という理由だった。

活動後、この研修の内容と参加生徒の感想をまとめ、全校生徒へ配付した。さらに、校内に、海コーナーを設置し高知研修の詳細な活動写真や高知研修新聞(参加生徒作成)を掲示した。



(左：津波避難タワー，右上：桂浜，右下：「海」レポート)

(3) 9月 総合レポート テーマ「海」 掲示(優秀作品)

高知研修報告レポート掲示

(4) 10月 前半活動報告会(体育館)

4月から今までの活動を写真や動画を写しながら、報告し、全員で共有した。「やはり海はすごい。素晴らしい」「海に面している町の人が、海の恵みをもたらしている。海を恐れていない」等、海への畏敬を共有する時間となった。また、これからの活動の概要を紹介し、今後の活動の見通しをもつことができた。

(5) 11月 講演会「岩手～震災からの水産業と地域の再生～」

「自分がこれから後の世代に、今日伊藤さんから学んだことを伝えていくことが自分の義務だと思った。」「漁業の復興を1か月でしたからこそ、たくさんのことにつながっていったのだと思います。」等、自分のこととして捉えるとともに、前向きに物事を考える強い生き方を学んだ。

また、放課後「伊藤先生を囲んで、より詳しいお話を聞く会」では、約40名が参加し、講演会の内容に関して、より深く突っ込んだ質問をしていた。



(左：全体会 右：放課後、伊藤先生を囲んで)

(6) 2月 講演会「郷土を誇りに未来へ～瀬戸大橋30周年～」

(インフルエンザによる学級閉鎖のため中止)

(7) 2月 全国海洋教育サミットで、ポスター発表参加
代表3人が、今までの活動をまとめポスター発表を行った。(右：写真)

(8) 3月 1年間の活動報告
1年間の活動のまとめとして、全国海洋教育サミットでの発表用ポスターを廊下に掲示した。



②実践の成果

- これまで、生徒たちは海に親しむ経験はあっても、海と郷土との関わりについて深く考えることはなかった。今回の学習を通して、海とどうつながってきたのか、また、どのように海と関わって生活してきたのか、さらには、瀬戸大橋によってどう変化してきたのか等、多方面から理解し、海との共生について考えることができた。
- 学習を進めることで、「海」＝「津波」という負のイメージを抱いていた生徒たちが、海と共に生きる姿勢を学び、日々、海から恩恵を受けていることを再認識していった。そして、海との共生を考えるまでに至った。
- 振り返りの記述から、「海」＝「私たちに恩恵をくれる。しかし、いざという時の準備は必要」という、「海」に対する捉え方の変容を見取ることができた。

③次年度への課題

- 今年度初めて、減災学習に「海」の視点を取り入れ活動を行った。しかし、昨今、重視されてきている海洋教育についての教員の認識が十分ではなかった。まず、教員全員が、海洋教育について、そして、その中の減災学習の領域について、学ぶ必要がある。
- 異なる教科の間を結びつけながら、より効果的に学習を進めることができるよう、カリキュラムマネジメントを考えて海洋教育を進めるまでは至らなかったことが課題である。

6 主な連携機関及び内容

- 高知県幡多郡黒潮町情報防災課
津波避難タワーの案内と説明
- 岩手県農林水産部水産振興課
講演会 講師派遣

中学2年生「被災地から学び、郷土の海との共生を考える」

【実践のねらい】

「命」に係わる防災教育は、学校教育において今日的課題になっている。しかし、温暖な気候で、地震災害の少ない地域に住んでいるため、生徒の防災教育への興味・関心は低い。2年生では、減災学習として、神戸・淡路での震災学習を計画している。本校において「減災」は3年間で行う学習テーマの1つである。今までの減災学習は、「免れない自然災害に対して、より被害を少なくするにはどうすればよいか」という内容であった。そのため、「海とは関係のない仕事をするから、津波は大丈夫」等の減災学習の本質から外れた感想があった。そこで、今まで取り組んできた減災学習に加え、東日本大震災の被災地が水産業や地域をどのように復興再生しているのかを知る活動を行い、海と共に生きる姿勢、海との共生について学ぶ。そして、「我が町倉敷が今までどのように海と関わったか」について知る活動を行うことで海との共生を防災という観点を中心に考えさせる。また、水島コンビナート、瀬戸大橋によって漁業は、地域はどう変化していったのか等、多様な取組から学びを深める。

○時期 5月～2月 総合的な学習の時間（13時間）

- 目標
- (1) 震災による津波の発生など、海の恐ろしさだけでなく、本来の海の良さやありがたさを自覚できる。
 - (2) 郷土と他地域を比較する学習を通して、文化・歴史・風習だけでなく自然環境の利用や保全、管理にまで視野を広げることができる。
 - (3) 学習活動を通して、海と共に生きる姿勢、海との共生を学び、防災によりよく取り組もうとする意欲をもつことができる。

